

第 59 回

中国四国生殖医学会総会・学術講演会

プログラムならびに講演抄録集

会長：島田昌之(広島大学大学院統合生命科学研究科教授)

会期：2026 年 8 月 30 日(日)

会場：岡山国際交流センター

〒700-0026 岡山県岡山市北区奉還町 2 丁目 2 番 1 号

TEL：086-256-2905

一般演題 第1群

04 膣内フローラ検査と子宮内フローラ検査の比較検討

よしだレディースクリニック

○森川麻里、吉田壮一、金田七海、延原裕子、津森幹子、今城昭史、仲瑞穂、
羽原由里子、岩岡雅子、宮本綾子、光成匡博

子宮内フローラが、妊娠成績に影響することが報告されている。子宮内フローラ検査は先進医療の対象であるが、検査料金が高価で検体採取に痛みを伴うことが問題である。一方、膣内フローラ検査は、最近検査キットが市販され、比較的安価で採取時の痛みが少ない特徴がある。今回、膣内フローラ検査と子宮内フローラ検査結果について比較検討を行った。

対象はこれまで2回以上良好胚移植を行っても妊娠に至らなかった症例で、文書による同意を得たうえで、子宮内細菌叢検査のEMMA、ALICEと膣内フローラ検査を同時に実施した10例とした。膣内フローラ検査で、Lactobacillus 属の細菌が90%以上検出されたHIGH (H)群、50%以上90%未満のMIDDLE (M)群、50%未満のLOW (L)群の3群に分けて検討を行った。

H群は6例、M群は3例、L群は1例であった。H群ではうち2例に膣内フローラ検査でUreaplasma が検出された。また両検査でLactobacillus 属の種はほぼ一致していた。M群では3例とも両検査でLactobacillus iners、Gardnerella、Ureaplasma が検出された。L群では両検査でLactobacillus はみられず、Gardnerella、Ureaplasma が検出された。

これらの結果より膣内フローラ検査と子宮内フローラ検査の結果は類似しており、膣内フローラH群では子宮内環境も良好な状態であった。またM、L群では子宮内環境が不良であった。